

# 背景を 越えて

—展示空間が美術作品に  
関与するとき—

とき：7月24日・8月7日

ともに日曜日、昼2時～4時

ところ：公民館

3階講座室

講師：新井晃

(あらい・ひかる)

定員：25名(申込先着順)

申込：7月8日(金)朝9時～

公民館 ☎ 572-5141

主催：公民館＋一橋大学言社研

美術はどこで鑑賞しますか？ 美術館、博物館？ 駅や公園、街の中？

美術作品とその展示空間の関係について考えます。

前篇では、中世の王侯貴族たちの宝物殿から、20世紀に登場する真白な「ホワイト・キューブ」まで、西洋における展示空間の変遷をたどりつつ従来の絵画や彫刻の枠組みを大きく飛び出した美術作品にも注目します。後篇では、近年盛んな、歴史的建造物を用いた展示について、フランスはヴェルサイユ宮殿美術館の事例から、政治・文化的な意味をもつ場所へ美術作品が置かれるときに生じる賛否両論をご紹介します。美術作品が建造物と呼応する時、いったい何が起ころうでしょうか？

一橋大学

院生講座

国立市内の一橋大学では、研究者をめざす大学院生たちが日々研究に励んでいます。そこで公民館が架け橋となり、若手研究者と地域社会との交流講座を続けてきました。最新の研究動向に触れるもよし！ 修行中の院生にアドバイスするもよし！ 院生が講師となって専門分野をご紹介します。